

山火事をきっかけに思い出してみた

山火事が元で、山梨県の扇山が全国ネットで報道されることになり、不名誉なことではあるが一躍有名になってしまった。大月市と上野原市の間にある山で、百蔵山・権現山と合わせて山梨県の都留地方の北端にあることから「都留三山・北都留三山」と呼ばれてきた。

新宿から中央本線で1時間半から2時間弱の行程なので、朝出かけると昼になってしまうが、前夜の夜行列車では眠る間もなく着いてしまうという中途半端な距離で、サラリーマンが週末に日帰りで行く山としては、厄介な存在でもあった。今では通勤電車も走り、所要時間も大分短縮されたが、初めてこの山に入った1963年には、中央本線はまだ機関車がけん引するチョコレート色の客車だった。

●扇山(おうぎやま)・百蔵山(ももくらやま)・権現山(ごんげんやま)

扇山は海拔 1137.8m。中央本線の列車が鳥沢駅に入ると駅の北側に見える、大きな扇を開いたような形の山である。山の名の由来もまさにこの景観どおりで、なだらかな曲線の稜線を引いた、至って物静かな風貌の山である。

大菩薩山塊の主峰大菩薩嶺(1957m)から「牛の寝通り」と言われる海拔1400m前後の大きく長い稜線が東に伸びている。牛の背中の中の曲線を感じさせることからこの名が付いた。



この稜線は東京都と山梨県の県境になっており、大マテイ山(1409m)・奈良倉山(1349m)あたりから南に向かうようになる。そして1200~1300mの高度を維持したまま東に長く伸び、権現山(1311.9m)を過ぎると高度を下げて上野原の盆地に落ちる。

権現山から南に伸びる枝尾根の先に東西に広がるのが、扇山と百蔵山(ももくらやま:1003.4m)で、どちらかと言うと権現山の前衛の添え物のような位置づけになる山でもある。

百蔵山は、扇山の南東にある「犬目」という地名と、南西にある「猿橋」、その東にある「鳥沢」の三つと「百(桃)」とを結びつけて、「桃太郎伝説」という由来節が言い伝えられているが、作り話の域を脱しきれてはいない。また、日本の山では「くら(倉・蔵)」が付く山名は「岩場のある山」であることが多いが、この山は岩峰がないので、山名の由来はもっと別なところにあるように思うが、あまり確度の高い情報に辿りつくこと

はできていない。

権現山は、山頂にある王勢籠権現（おせろうごんげん）が山名の由来。上野原市和見にある王勢籠神社の奥宮の位置づけになっており、主祭神は日本武尊で、三峰信仰と同じ狼信仰の神社と言われている。

扇山・百蔵山・権現山いずれも、富士山を見るのには絶好の山である。

●山火事の報道から

山火事の場合はどの辺か、注意深くニュースを聞いていたら、「上野原市の大目地区」と言っていた。上野原市に大目という町は存在しないので、ニュースを聞いて地図を開いても場所がわからない。昔はこの辺りには、大野村と犬目村があった。明治8年（1875年）に合併して、両村の一字ずつとった「大目村」が起立した。昭和30年（1955年）に大目村は上野原町に統合されて村名は消え、字地名として残ったのは旧村名（大野・犬目）だった。一時的に存在した「大目」という地名は地域を総称する呼称として「大目地区」という表現が残ったということのようだった。

避難指示が出ている地域から類推すると、火災の現場は前頁の地図の「犬目」の表記の左上あたりのようなのだが、日々拡大しているようなので、詳細はわからない。雑木林とカヤトの山なので、いったん火が付いたら止めようがないと思われる山である。

犬目は江戸から甲州への街道の、上野原を過ぎて山の裾にかかるところにある宿場だった。

正徳3年（1713年）に宿場ができて、本陣 1 軒・脇本陣 2 軒・旅籠 15 軒があったが、昭和45年の大火で約6割が焼失した。

中央高速道路が開通し、談合坂サービスエリアができ、周りにゴルフ場がいくつもでき、このあたりの景観は大きく変わってしまったが、私が初めてこの里を訪れた時は、日没とともに暗闇になる、静かすぎるような田舎だった。葛飾北斎の富岳三十六景に「甲州犬目峠」という作品がある。（右画像）



●扇山と百蔵山 一回目

1963年5月18日、新入社員研修のさなか、週末の夜行列車で出かけた。

新宿 0:05 発の臨時列車岡谷行、四方津駅着は 1:56。駅舎の中で食事をしていたら駅員が火鉢を持ってきてくれた。体の内外からのぬくもりを得て、薄明まで時を過ごした。

4:45 に四方津駅を出て、大野貯水池（今では大野ダムと言うらしい）を通して、犬目の集落を目指した。犬目から扇山の肩になる 928m のピークに上る山道を目指したのだが、とりつき点が見つけれず、しかも途中から降り出した雨が激しくなってきたので、このルートからのアタックは中止。

駅に戻って、次の列車に乗り鳥沢駅へ。鳥沢駅からの正面ルートを選び、扇山山頂に 10:50 到着。ゆっくり昼食をとり、西に歩き百蔵山（1003.4m）へ縦走。百蔵山から猿橋駅に下りた。

<http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/mount018.pdf>

●扇山と百蔵山 二回目

1972年1月17日、東京に雪が降った翌日、雪を踏んで登ってみようと思ってでかけた。

高尾発 7:24 に乗り鳥沢着は 8:10。正面ルートの登山道は積雪数センチ、山頂付近の吹き溜まりで 10 数センチと歩きやすい程度の積雪だった。

雪のあとの快晴で空が澄んでいて富士山はもちろんのこと、その他の山も、そして都心の霞が関ビルやそのはるか先の筑波山までがくっきりと見えた。結婚した翌月で、夫婦で出かけた初めての山で、山頂で雪景色の撮影とスケッチを楽しみ、百蔵山経由で猿橋に下った。

●残ってしまった権現山

登りたい山をリストアップしておいて、消し込んでいくのが楽しみだった。扇山と百蔵山へは二度も出かけているのに、地理的な関係もあり権現山だけが残ってしまった。

1997年4月20日好機到来、山中湖マラソンに出かけた翌日、山中湖畔の宿を出発して帰宅の途中で立ち寄るプランを作った。

車で鳥沢から扇山を左手に見て走り、扇山北面の谷に入った。扇山沢の出会いに車を止めて浅川峠経由で山頂に達した。途中でワラビ取りを楽しむ贅沢な山歩きになった。

以上

<蛇足>

扇山の山火事が報道された週に、神奈川県丹沢でも山火事があった。登山客が最も集中する大倉尾根の下部にある堀山で、山荘が全焼したようだった。

いずれの山火事も真の原因はまだはっきりしてはいないようだが、場所的に考えると、想定される原因のひとつに「登山客の火の不始末」は否定できない。

世の中が便利になり、一般人の生活の中で火を燃やすことはかなり少なくなった。そのため、多くの人が持つ「火の燃やし方」と「火の消し方」の知識（常識）は減退していると思われる。

山火事の原因が、これではないことを、ひたすら祈るのみである。